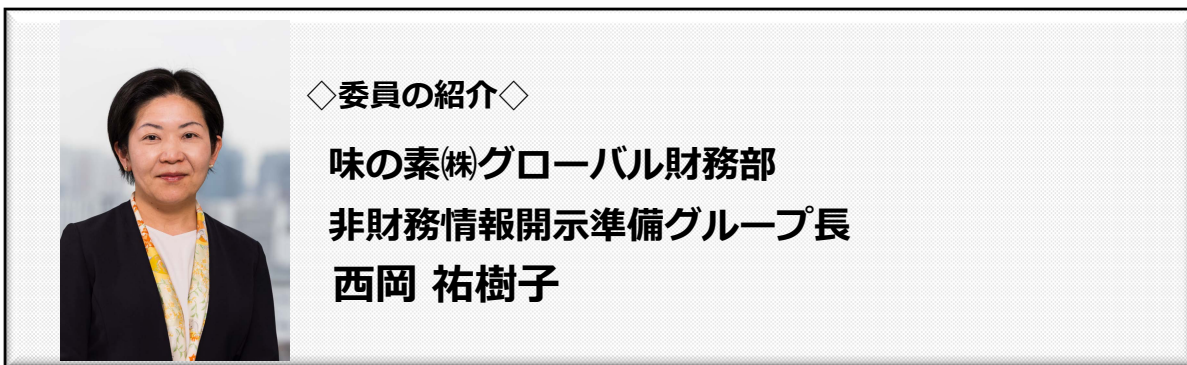




2026 年 4 月よりサステナビリティ基準委員会の非常勤委員に就任いたしました。これまで主に事業会社において財務経理部門に所属し、資金調達や事業管理、制度会計に従事して参りました。現在は、所属企業において主にサステナビリティ情報の制度開示の準備にあたっております。

財務経理業務に従事していた際は一貫して企業価値について考えておりましたが、その中で感じていたのは、企業価値を測る手段としての財務会計の限界でした。それを補うのがサステナビリティ情報であると理解しており、よって、昨今のサステナビリティ情報の開示要請ならびにその制度開示化は、私にとっては非常に納得感のある動きでありました。

一方、サステナビリティを取り巻く状況は日々変化しています。サステナビリティに係る種々の課題が、人類にとっての地球規模の壮大なチャレンジであると共に、時にスピード感も求められるためと感じています。

その中で企業は、企業そのものの在り方やビジネスの存在意義、様々なステークホルダーからの期待について真剣に考えながら日々の実務を進めています。近年不確実性が高まる情勢の中において、その検討の必要性は企業経営の現場においてますます高まっていると肌で感じます。その中においてサステナビリティ情報は、投資家の意思決定だけでなく、企業におけるアセットアロケーションの重要な判断材料であり、地球環境や社会への貢献を広く効率的に促進するツールであります。そしてその公正公明な開示は市場における公平な企業評価に必要であり、企業の中長期的成長、ひいては課題への対応実現力を高めると理解しています。特に今、地球温暖化対策や自然資本への検討は地球市民としての責務となっており、サステナビリティ情報の制度開示は、特にグローバルにビジネスを展開する企業にとって、まさに事業を進める上でのパスポートと同じと感じます。

SSBJ 基準は、今後も引き続き検討が進むものと理解しています。この重要なタイミングにおいて基準開発に携われることは大変光栄であり、また責任の重さを感じております。

私が所属する味の素グループは、日本企業として世界中で事業展開を進めています。そしてそのビジネスは大きく地球の自然に依存し、バリューチェーン上には様々な人、文化、歴史、環境が存在します。その知見を活かしつつ、そして人間の叡智としての技術革新についても理解・勘案しながら日本企業の企業価値向上に資する基準開発へ尽力して参ります。